

[040]九州人類学会報お知らせ

<https://hdl.handle.net/2324/2344783>

出版情報：九州人類学会報. 40, 2013-02-12. Kyushu Anthropological Association
バージョン：
権利関係：

2012.09.25

九州人類学研究会 会員の皆様へ

拝啓

ようやく秋の気配が感じられる此の頃ですが、九州人類学研究会の会員の皆様におかれましては、ご機嫌うるわしくお過ごしのことと存じます。

さて、九州人類学研究会は、2012年総会において『九州人類学会報』を廃刊とし、それに伴う運営体制を変更するという決定をいたしましたのでご報告いたします。会報廃刊の主たる理由は、編集部への継続的な過度の作業負担、そして専門雑誌媒体の多様化です。第39号まで継続してきた雑誌の廃刊は残念でありませんが、これも時代の潮流としてご理解くださいますようお願いいたします。もちろん、今後の運営委員会の体制次第では『九州人類学会報』のリニューアルの選択肢も残されていると思いますが、総会において、現状では会報の継続は難しいと判断いたしました。

また、2011年度は実質的に会費の徴収を行っておりませんでした。今後とも会費を徴収する予定はありません。なお、現在の会員は引き続き九州人類学研究会のメンバーシップを保持することになります。九州人類学研究会のホームページやメールを媒介として、九州地区の人類学ネットワーク拠点としての機能を充実させたいと考えています。

『九州人類学会報』をweb版に移行する予定はありません。ただし、研究会HPを利用して、会員による（あるいは会員が組織する）投稿原稿の掲載等に関する詳細は10月下旬までにお知らせする予定ですが、基本的な方針は次のようなものです。原則として、研究会HPにはこれまでに九州人類学研究会が実施してきた査読付きの論文や研究ノートに掲載しません。査読論文に関しては、『日本文化人類学』や各地域研究ジャーナル、各研究教育機関の紀要等に投稿していただき、九州人類学研究会へは論文という形にはなりにくいフルドワークや調査の報告書、レビュー・エッセイ（レビューの対象は広く、書籍、展示会、研究会、映画会、各種イベント等、文化人類学に関連したものであれば特に対象を限定しません）を中心にした投稿を奨励したいと思います。もちろん、論文や研究ノートとして投稿されてもかまいませんが、査読論文にはならないのでご注意ください。なお、投稿原稿はオリジナルのものに限ります。また、査読はしませんが、原稿は運営委員が目を通し、委員が1) 倫理的に逸脱している、2) 研究会の主旨に沿わない、3) 学術性が著しく欠如していると判断した場合は掲載を見送ることもありますのでご了承ください。いずれにせよ、投稿規定については運営委員会で検討しながら、柔軟に対応していきたいと思っておりますので、ご意見等がございましたら事務局までお寄せください。現在のタイムスケジュールとしては、オースタムセミナーの際にweb上で公開していく原稿の取り扱い等の詳細についてお知らせする予定です。

最後になりましたが、九州地区における文化人類学の研究、教育体制をどのように維持し、また、活性化させていくのかを検討していく場所として、九州人類学研究会はいまだに重要な位置にあると考えています。会員の皆様のサポートが重要になってまいりますので、今回の運営体制の変更をひとつの機

会として、皆様の忌憚のないご意見、ご要望を事務局までお寄せいただくと幸甚に存じます。皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、九州人類学研究会へのご協力、よろしく願いいたします。

草々

九州人類学研究会会長 慶田勝彦